

11月6日に3学年の課題研究「ソーシャルビジネス」では、開発途上国の現場で JICA の青年海外協力隊として国際協力に携わった方を講師に迎えてワークショップを開催しました。派遣国（タンザニア）。前半は、講師の方は同時多発テロがきっかけで海外に興味を持ち、「国際協力師になるために」を読んで少しずつ環境を変えていった話、生徒にはあまり馴染みのないアフリカの国の現状などの話を聴くことができました。主な活動は「地域住民の生活向上のため調査を行い住民と一緒に施策を考える」ということで、課題を見つけその解決策を考えたときの体験談や苦労話など詳しく説明してくださいました。また、後半は、質問形式で自分の考えを大切にすることや自分が一歩を踏み出すと自分の世界が変わることなど自分を成長させるためのワークショップを実施していただきました。

当日は授業公開日だったので、中学生と保護者の方が授業見学にいられていました。



【生徒の感想】

- ・自分も将来 JICA のような国際協力に携わっていきたいと考えているので、とても勉強になりました。タンザニアはスワヒリ語なので英語の通じない地域では意思疎通が困難だろうと思いました。（男子生徒）
- ・将来、国際協力に関わりたいと考えていて、JICA の海外協力隊の存在を初めて知れて大学生になったら参加したいと思った。（男子生徒）
- ・自分もすごくアフリカとか南米に興味があって、今回、講師の方の経験からリアルなアフリカを知れてとてもいい機会になりました。中学生の頃から「人のために仕事がしたい」と考えていたので JICA はとても気になっていました。（女子生徒）